

表-3. 2. 1 (2) 代替施設本体の改変区域における移動対象種

番号	目	科	種名	代替施設本体		選定基準 <sup>1),2)</sup>		
				大浦湾西部	辺野古地先	A	B	C
46	マルスダレガイ目	ザルガイ科	イレズミザル	●	●	VU	NT	—
47			カワラガイ		●	NT	VU	—
48			オキナワヒシガイ	●	●	NT	NT	—
49			リュウキュウアオイ		●	—	NT	—
50			リュウキュウアオイガイモドキ		●	—	NT	—
51		バカガイ科	ユキガイ	●		NT	NT	—
52		チドリマスオ科	イソハマグリ	●	●	NT	—	—
53			ナミノコマスオ	●	●	—	NT	—
54		チトセノハナガイ科	チトセノハナガイ	●		VU	CR	—
55		フジノハナガイ科	ナミノコガイ	●		NT	EN	—
56			リュウキュウナミノコ		●	NT	—	—
57		ニッコウガイ科	コニッコウガイ	●	●	—	NT	—
58			ヒノデガイの一種		●	NT	VU	—
59			ヒメニッコウガイ		●	—	NT	—
60			トンガリベニガイ	●		VU	VU	—
61		ニッコウガイ科	ウネイチョウシラトリ	●		—	DD	—
62			ヒワズウネイチョウ	●		VU	DD	—
63			ウラキヒメザラ		●	NT	NT	—
64			ミガキヒメザラ	●	●	—	NT	—
65			ミクニシボリザクラ	●	●	NT	—	—
66		シオサザナミ科	マスオガイ		●	NT	NT	—
67		キヌタアゲマキ科	ホソズングリアゲマキ	●		—	VU	—
68		マルスダレガイ科	オオヌノメガイ	●	●	—	NT	—
69			チリメンカノコアサリ	●	●	—	DD	—
70			ガンギハマグリ	●		NT	—	—
71	オミナエシハマグリ		●	●	NT	NT	—	
72	ウスカガミ		●		—	VU	—	
73	オイノカガミ		●	●	NT	VU	—	
74	スダレハマグリ			●	NT	NT	—	
75	フキアゲアサリ		●	●	—	DD	—	
76	エビ目		カニダマシ科	オオヒロバカニダマシ	●		—	NT
77		オカガニ科	ヤエヤマヒメオカガニ	●		—	NT	—
78		ベンケイガニ科	イワトビベンケイガニ	●		—	NT	—
79		モクズガニ科	オキナワヒライソガニ	●	●	NT	—	—
80			コウナガイワガニモドキ		●	—	NT	—
81			ヨツハヒライソモドキ	●		NT	—	—
82	ヒラモクズガニ	●		—	NT	—		
83	ケヤリモ目	ケヤリモ科	ウミボッス	●	●	CR+ EN	CR+ EN	—

注) 1. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。

- A : 「Red Data Book 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 (6 貝類、7 その他無脊椎動物 (クモ形類・甲殻類等)、9 植物 II (蘚苔類、藻類、地衣類、菌類))」(環境省、平成 26、27 年) の記載種  
 B : 「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータおきなわ-」(沖縄県、平成 17、18 年) の記載種  
 C : 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号) の記載種、「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号) 等に基づく天然記念物

2. 選定基準における略号は以下のとおりである。

CR+EN : 絶滅危惧 I 類、CR : 絶滅危惧 IA 類、EN : 絶滅危惧 IB 類、VU : 絶滅危惧 II 類、NT : 準絶滅危惧  
 DD : 情報不足、LP : 絶滅のおそれのある地域個体群

表-3.2.2(1) 辺野古地先水面作業ヤードの改変区域における移動対象種

番号	目	科	種名	辺野古地 先水面作 業ヤード	選定基準 <sup>1),2)</sup>			(参考) 代替施 設本体
					A	B	C	
1	アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	ニセヒロクチカノコ	●	NT	—	—	
2			ウスベニツバサカノコ	●	NT	—	—	
3			ツバサカノコ (ヒロクチカノコ沖縄型)	●	NT	—	—	
4			ユキスズメガイ科	ミヤコドリ	●	NT	—	—
—	盤足目	オニツツノガイ科	カヤノミカニモリ	●	NT	NT	—	●
5		トウガタカワニナ科	ヌノメカワニナ	●	NT	—	—	
6		カワグチツボ科	マンガルツボ	●	NT	NT	—	
7		タマガイ科	ツツミガイ	●	NT	NT	—	
8	新腹足目	フデガイ科	ヤタテガイ	●	—	NT	—	
9	頭楯目	ブドウガイ科	ホソタマゴガイ	●	NT	—	—	
10	基眼目	オカミミガイ科	クロヒラシイノミガイ	●	NT	—	—	
11			ヒメヒラシイノミガイ	●	NT	—	—	
12			ヘソアキコミミガイ	●	NT	—	—	
—	フネガイ目	フネガイ科	リュウキュウサルボウ	●	—	NT	—	●
13	イガイ目	イガイ科	クログチ	●	—	NT	—	
14			ホソスジヒバリガイ	●	NT	NT	—	
—	カキ目	ベッコウガキ科	サンゴガキ	●	VU	CR	—	●
—	マルスダレガイ目	ツキガイ科	カブラツキガイ	●	—	VU	—	●
15		フタバシラガイ科	<i>Diplodonta</i> sp. B	●	DD	NT	—	
—		チリハギガイ科	ユンタクシジミ	●	NT	—	—	●
—			セワケハチミツガイ	●	NT	—	—	●
—		ブンブクヤドリガイ科	スジホシムシヤドリガイ	●	NT	—	—	●
—		ザルガイ科	カワラガイ	●	NT	VU	—	●
—			リュウキュウアオイ	●	—	NT	—	●
16		バカガイ科	オトメタママキ	●	CR+ EN	—	—	
—			ユキガイ	●	NT	NT	—	●
—		チドリマスオ科	イソハマグリ	●	NT	—	—	●
17			クチバガイ	●	NT	NT	—	
—		フジノハナガイ科	ナミノコガイ	●	NT	EN	—	●
—			リュウキュウナミノコ	●	NT	—	—	●
18		ニッコウガイ科	ヒラセザクラ	●	NT	VU	—	
19			ホシヤマナミノコザラ	●	VU	VU		
20	リュウキュウクサビザラ		●	VU	—	—		
21	リュウキュウザクラ		●	NT	LP	—		
22	シオサザナミ科	ハザクラ	●	NT	NT	—		
—		マスオガイ	●	NT	NT	—	●	
23		ミナトマスオ	●	VU	EN	—		
24		アシベマスオ	●	DD	—	—		
25	フナガタガイ科	タガソデモドキ	●	NT	—	—		
26	マルスダレガイ科	トモシラオガイ	●	—	DD	—		
—		オイノカガミ	●	NT	VU	—	●	
27		ヤエヤマスダレ	●	—	NT	—		
28	ハナグモリ科	ハナグモリ	●	VU	EN	—		
29	オオノガイ目	オオノガイ科	クシケマスオ	●	NT	NT	—	
30		ホンヤドカリ科	オキナワアカシマホンヤドカリ	●	—	EN	—	

表-3.2.2(2) 辺野古地先水面作業ヤードの改変区域における移動対象種

番号	目	科	種名	辺野古地 先水面作 業ヤード	選定基準 <sup>1),2)</sup>			(参考) 代替施 設本体
					A	B	C	
31	オオノガイ目	コブシガニ科	アマミマメコブシガニ	●	DD	VU	—	
32		ヤワラガニ科	オキナワヤワラガニ	●	—	VU	—	
—		オカガニ科	ヤエヤマヒメオカガニ	●	—	NT	—	●
—		ベンケイガニ科	イワトビベンケイガニ	●	—	NT	—	●
33			ミゾテアシハラガニ	●	—	NT	—	
—		モクズガニ科	オキナワヒライソガニ	●	NT	—	—	●
—			コウナガイワガニモドキ	●	—	NT	—	●
—			ヒラモクズガニ	●	—	NT	—	●
34		ムツハアリアケガニ科	ミナミムツハアリアケガニ	●	—	VU	—	
35		オサガニ科	チゴイワガニ	●	—	NT	—	
36	スナガニ科	ルリマダラシオマネキ	●	—	NT	—		

注) 1. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。

A : 「Red Data Book 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 (6 貝類、7 その他無脊椎動物 (クモ形類・甲殻類等)、9 植物 II (蘚苔類、藻類、地衣類、菌類))」(環境省、平成 26、27 年) の記載種

B : 「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータおきなわ-」(沖縄県、平成 17、18 年) の記載種

C : 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号) の記載種、「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号) 等に基づく天然記念物

2. 選定基準における略号は以下のとおりである。

CR+EN : 絶滅危惧 I 類、CR : 絶滅危惧 IA 類、EN : 絶滅危惧 IB 類、VU : 絶滅危惧 II 類、NT : 準絶滅危惧  
DD : 情報不足、 LP : 絶滅のおそれのある地域個体群

### 3.3 底生動物等の移動先

底生動物等における移動先は、移動対象種の分布情報や生態情報（生息環境）をもとに、以下に示す手順（図-3.3.1）で検討を行うことにより、対象種ごとに移動先候補地点を抽出し、現地踏査を行った上で選定した。移動先候補地点の抽出に係る考え方の概要を表-3.3.1に示す。

#### 【手順】

- ① 既往調査における分布情報の整理
  - ・既往調査における移動対象種の確認地点数及び確認回数を整理することにより、移動先候補地点となる主要な分布を把握した。
- ② 生態情報（生息環境）との照合
  - ・移動先候補地点の環境が、移動対象種の生息環境と合致するかを、既存資料による生態情報をもとに確認し、合致する地点を移動先候補地点として抽出した。なお、ここでは、海底基質の状況（海草藻場、岩、礫、転石、砂、泥等）を生息環境として整理した（表-3.3.2、表-3.3.3参照）。
  - ・移動個体数が多くなる可能性があるイソハマグリについては、移動先の生物相に攪乱を引き起こさないよう、集中して確認されている地域や頻繁に確認されている地点ではなく、確認回数が中程度で、生物相が改変区域内と比較的類似した地点周辺から移動先候補地点を抽出した。
- ③ 生物相の類似性の解析による絞り込み
  - ・既往調査における確認状況（確認地点数、確認回数）からだけでは移動先候補地点が抽出できない場合、確認地点における生物相の類似性解析を行って、移動先の候補地点を絞り込んだ。その際、移動先へのアクセス性も考慮した。
- ④ 生態情報（生息環境）に基づく抽出
  - ・①や③で移動先候補地点が絞り込めない場合には、既存資料による生態情報から生息環境（海底基質の状況）を推察し、合致する地点を移動先候補地点として抽出した。
- ⑤ 現地踏査による移動先候補地点の妥当性の確認
  - ・上記の検討によって抽出した移動先候補地点の妥当性について、生息環境（海底基質の状況）や予想される生物相の状況を現地踏査により確認して、移動先を選定した。海岸域での現地踏査の実施位置を図-3.3.2、海域での現地踏査の実施位置を図-3.3.3に示す。

現地踏査の結果を踏まえた移動先と放流箇所の候補を表-3.3.2及び表-3.3.3に、移動先の位置図を図-3.3.4及び図-3.3.5に示す。

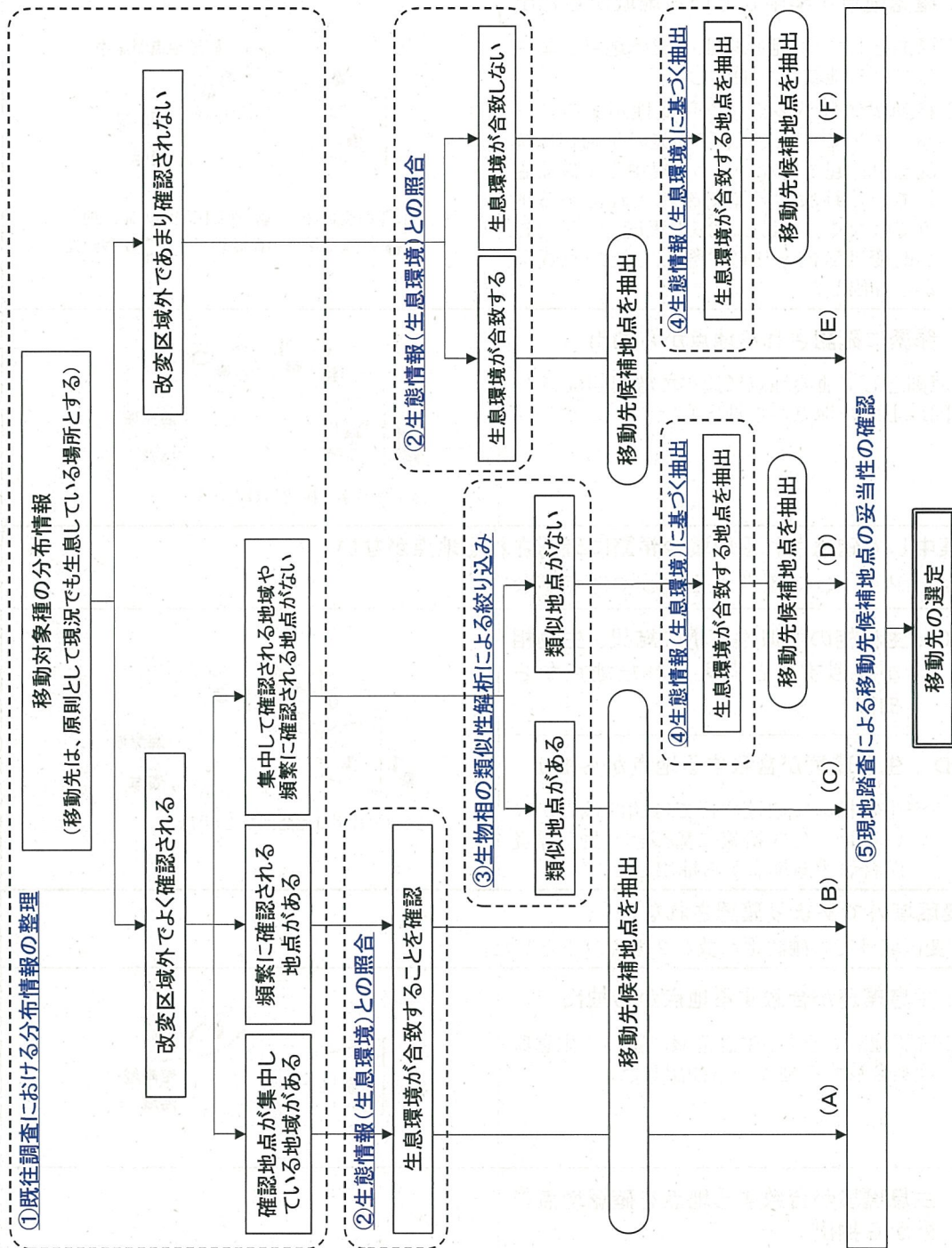


図-3.3.1 底生動物等の移動先の選定手順

注) ここでは、海底基質の状況(海藻藻場、岩、礫、転石、砂、泥等)を「生息環境」として整理した。